

教育相談に関する研究グループ

有効な支援方法について

- 支援につながりにくい児童生徒と保護者のケースを通して -

山梨大学アドバイザー
桐原ひかる 渡部 雪子

所内アドバイザー
玄間 修

小山 三枝子 佐藤 正俊
芦沢 令子 小野 圭

主題設定の背景

「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」より（令和5年3月31日）
文部科学省

教育振興基本計画より
（令和5年6月16日閣議決定）文部科学省

誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進

支援を必要とする子供の長所・強みに着目する視点の重視
多様性、包摂性ある共生社会の実現



誰一人取り残されない

研究主題と研究方法

研究主題

有効な支援方法について

～ 支援につながりにくい児童生徒と保護者のケースを通して～

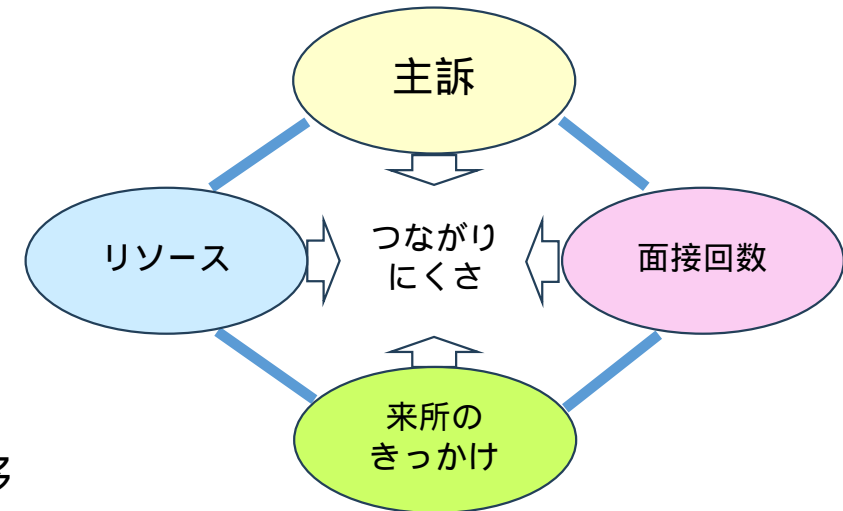
研究方法

基礎データの作成

(「基礎データ」とは過去5年間の新規面接相談の記録から集めた情報を指す)

基礎データの分析

- (1) 過去5年間の校種・主訴別新規面接相談数の推移
- (2) 主訴
- (3) 面接回数の少ないケース
- (4) 来所のきっかけ
- (5) 学校内外のリソース* *支援のために活用できる人や場所
(リソース(学校内)、学校外につながり)
- (6) クロス分析



基礎データの抽出項目

- 1 氏名
- 2 市町村
- 3 校種（小、中、高、その他）
- 4 学校名
- 5 学年
- 6 性別
- 7 家族構成
- 8 主訴*
- 9 相談者（保護者）の視点
- 10 被相談者（面接担当者）の視点
- 11 推薦者
- 12 学校内のリソース（担任、特別支援教育Co、SC他）
- 13 学校外のリソース（医療、福祉、区市町村教育機関、民間）
- 14 面接回数

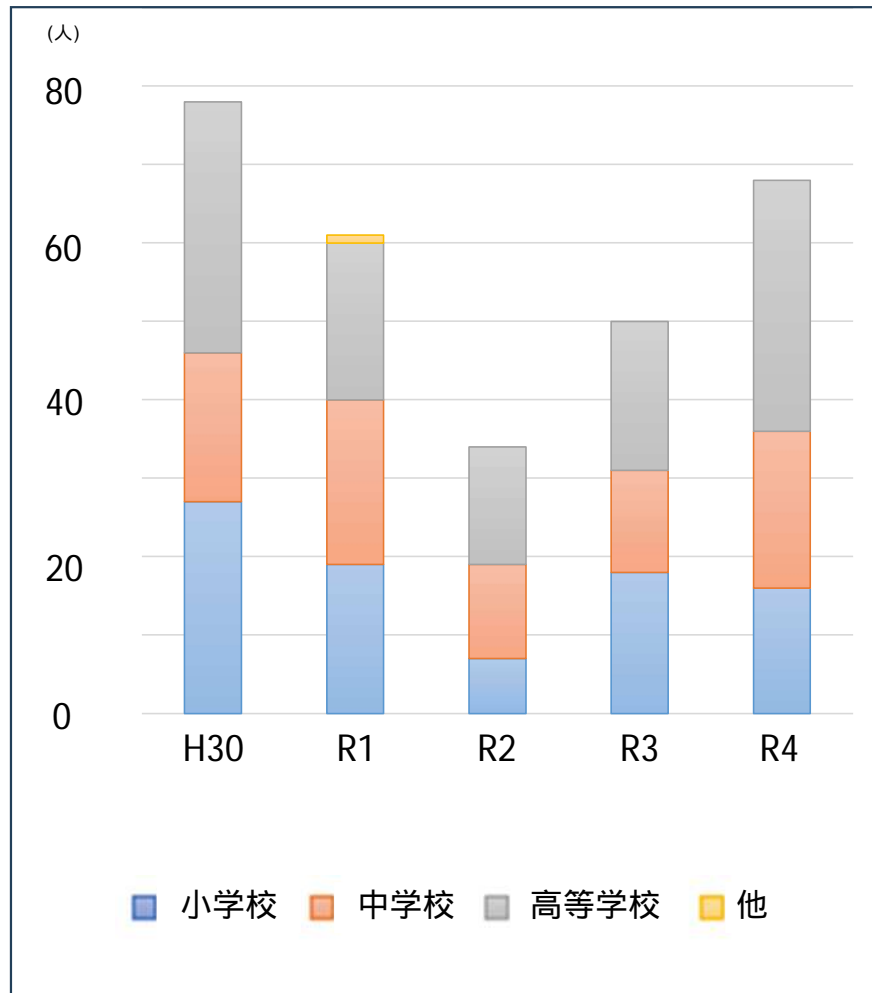
分類項目は右

* 主訴とは
「面接相談で話し合うこと」

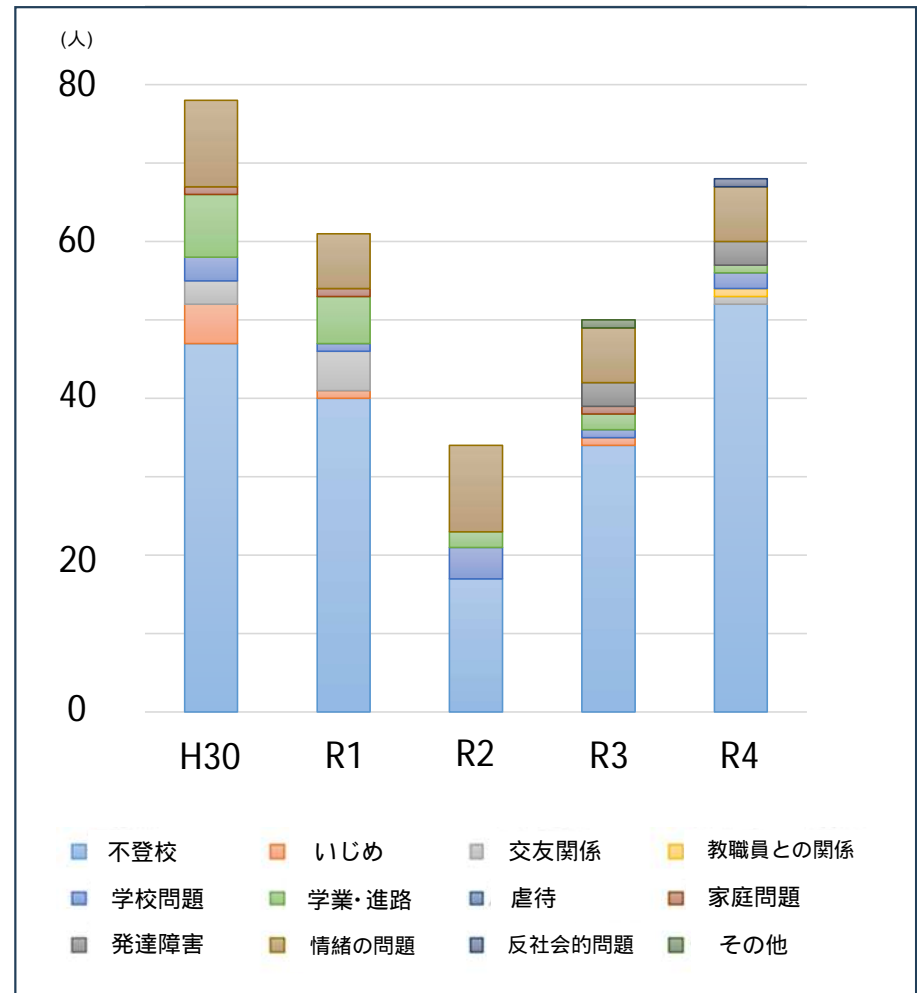
- 1 不登校
- 2 いじめ
- 3 交友関係（2を除く）
- 4 教職員との関係
- 5 学校問題（4を除く）
- 6 学業・進路
- 7 虐待
- 8 家庭問題（7を除く）
- 9 発達障害
- 10 情緒の問題（9を除く）
- 11 反社会的問題
- 12 その他
- 13 問い合わせ

過去5年間の校種・主訴別新規面接相談数の推移

校種別

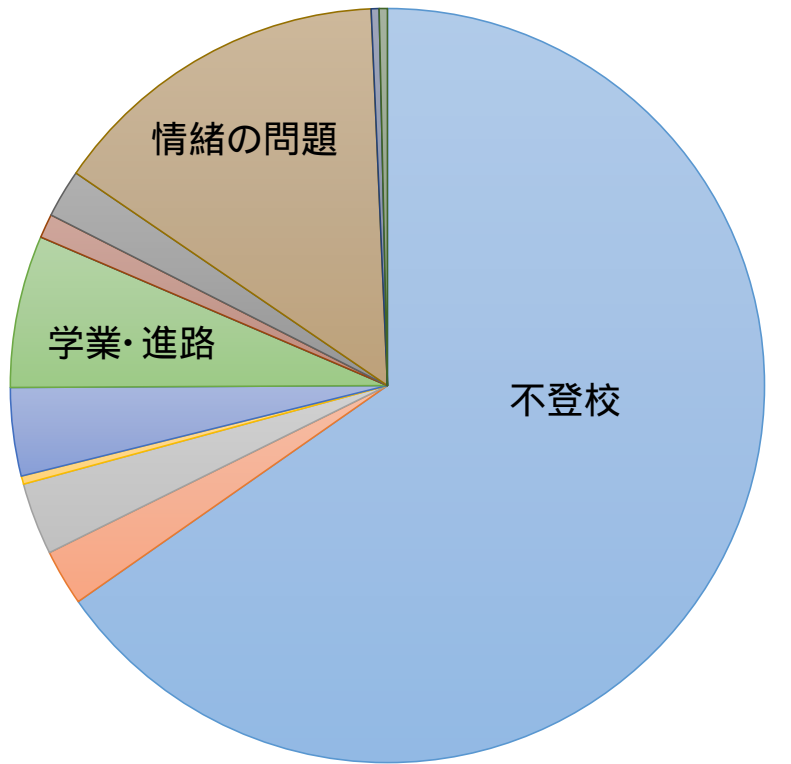


主訴別



主訴

新規面接相談の初回面接時の主訴



分析の視点

相談者（保護者）の視点

面接相談の過程で表出してきた主訴の背景

被相談者の視点

面接担当者が見立てた主訴の背景

- | | | | |
|--------|---------|----------|-----------|
| ■ 不登校 | ■ いじめ | ■ 交友関係 | ■ 教職員との関係 |
| ■ 学校問題 | ■ 学業・進路 | ■ 虐待 | ■ 家庭問題 |
| ■ 発達障害 | ■ 情緒の問題 | ■ 反社会的問題 | ■ その他 |

主訴

不登校

相談者（保護者）
の視点



被相談者
の視点



- | | | |
|------------------------|----------|---------|
| ■ わからない、決められない、見立てに至らず | ■ いじめ | ■ 交友関係 |
| ■ 教職員との関係 | ■ 学校問題 | ■ 学業・進路 |
| ■ 虐待 | ■ 家庭問題 | ■ 発達障害 |
| ■ 情緒の問題 | ■ 反社会的問題 | ■ その他 |

主訴

情緒の問題

上位2つ

相談者（保護者）の視点

発達障害

不登校

被相談者の視点

発達障害

家庭問題

学業・進路

上位2つ

相談者（保護者）の視点

発達障害

不登校

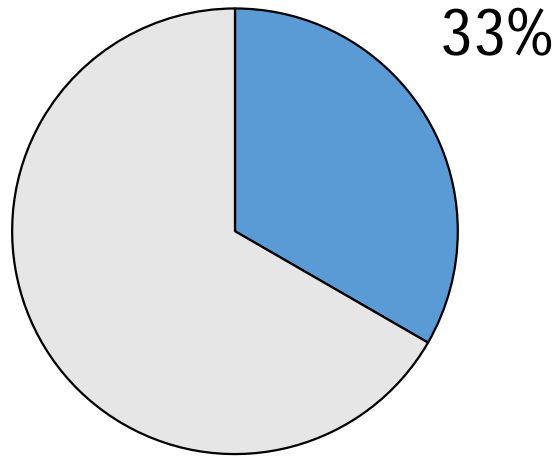
被相談者の視点

発達障害

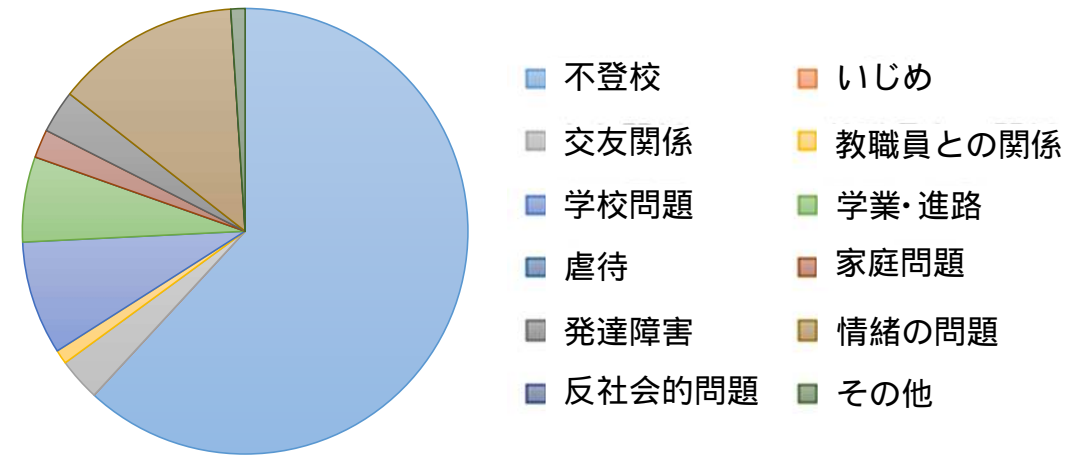
家庭問題

面接回数（2回以下で終わったケース）

面接が2回以下で終わったケース

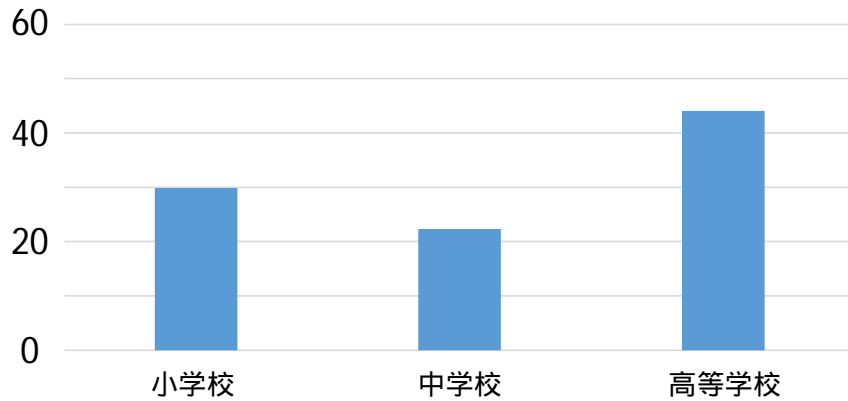


主訴

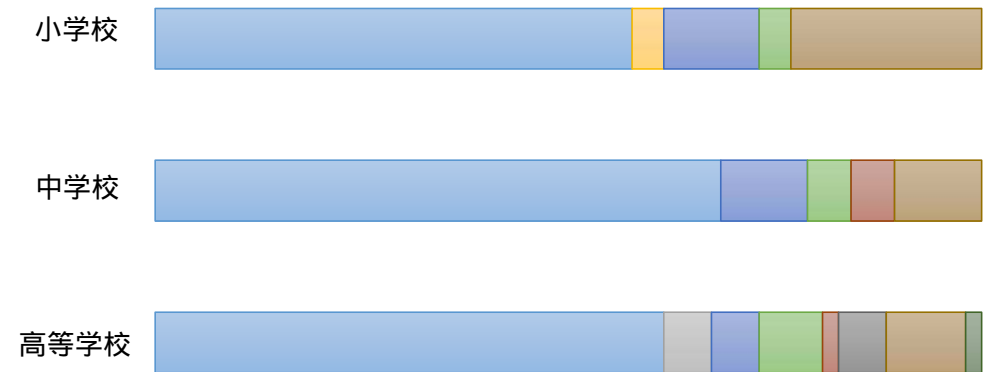


(%)

校種別

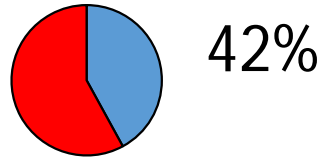


主訴 校種別

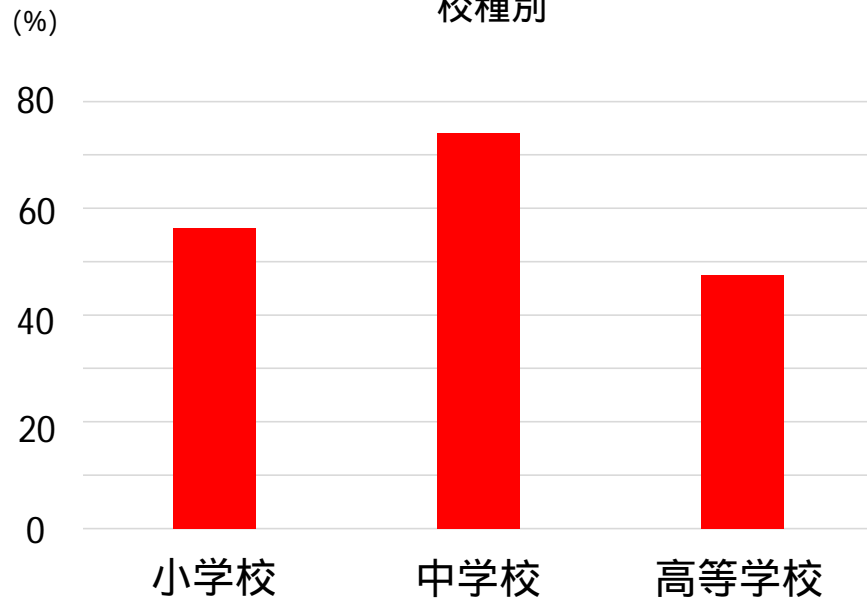


来所のきっかけ

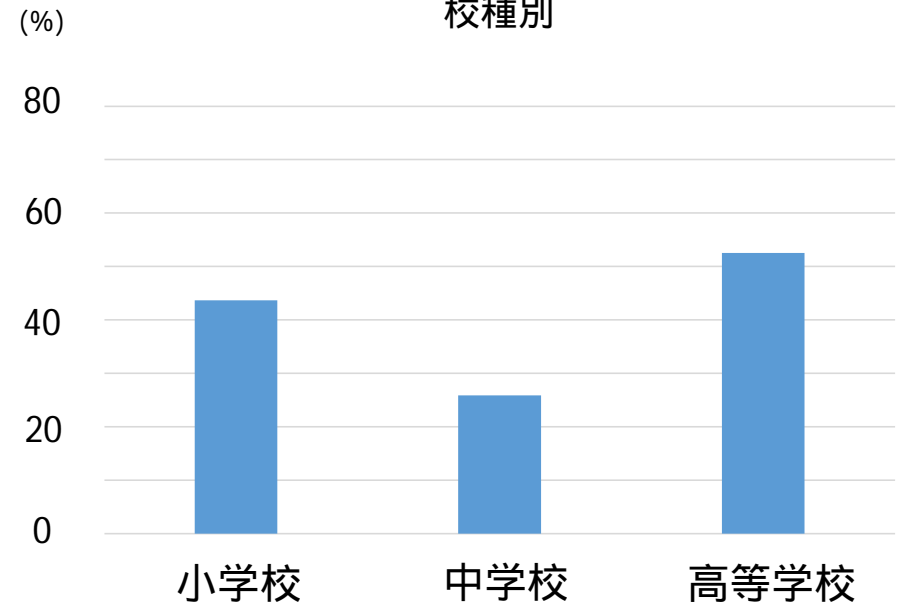
学校に勧められて来所したケース



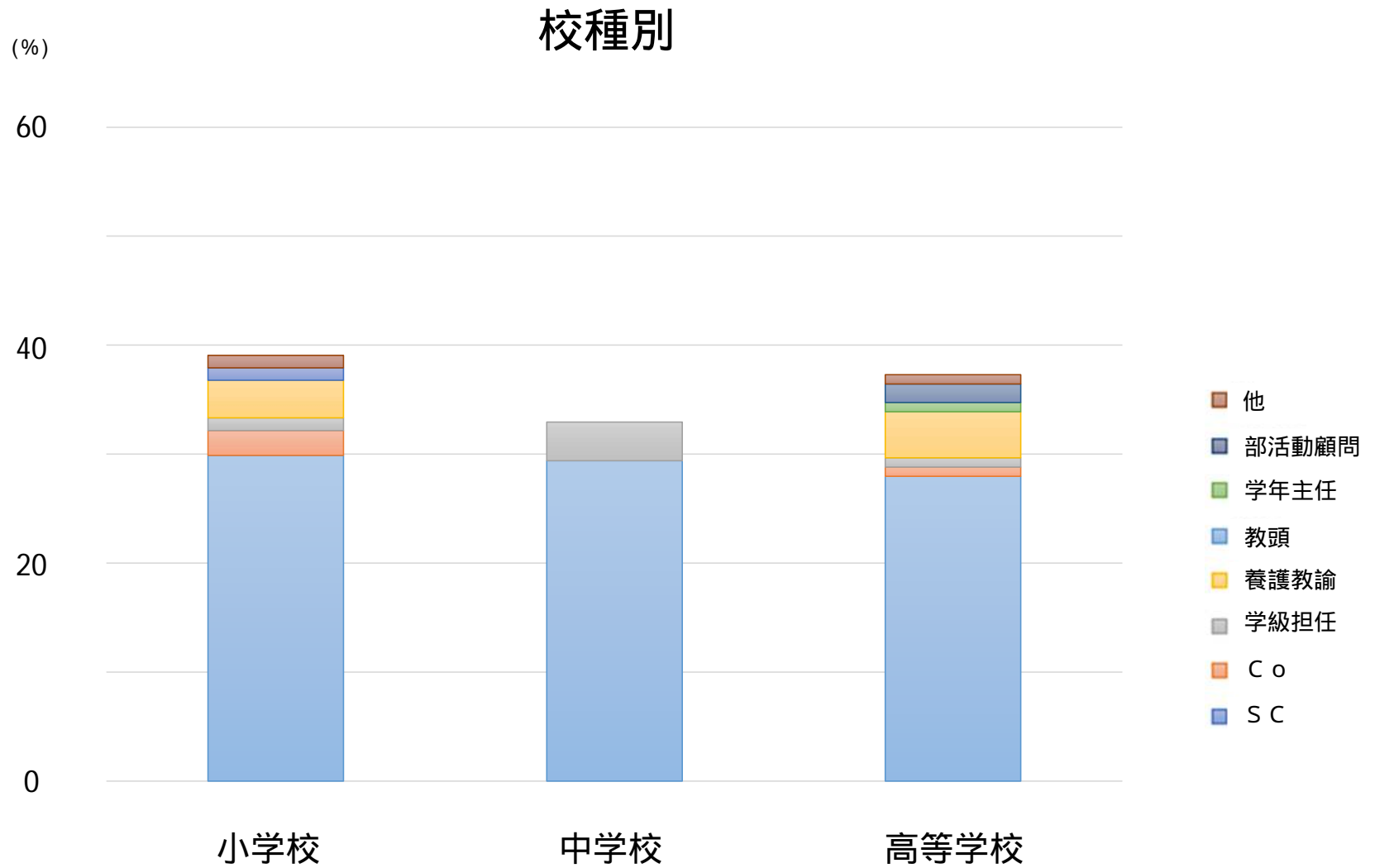
学校の勧めなしで来所したケースの割合
校種別



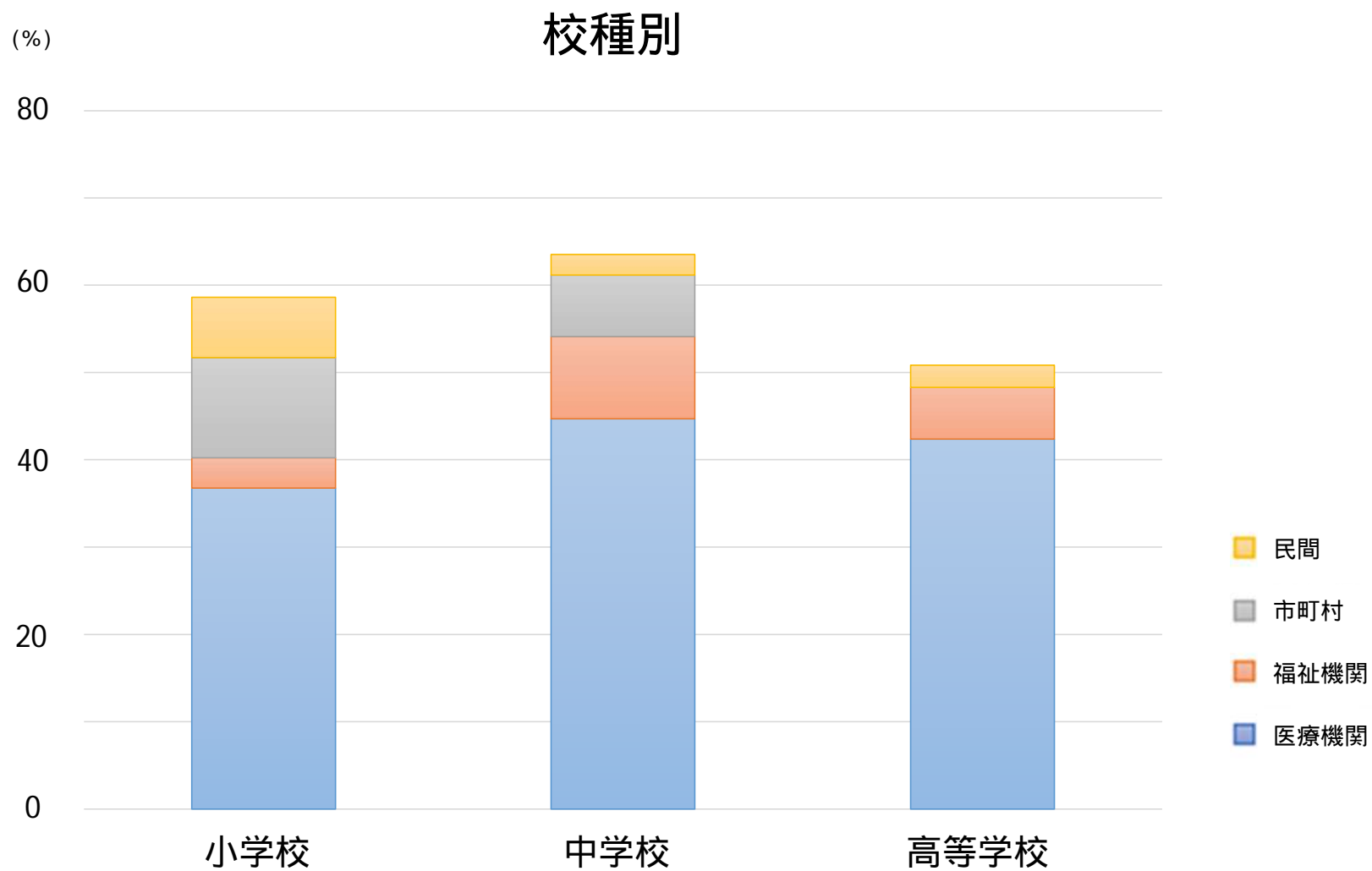
学校に勧められて来所したケースの割合
校種別



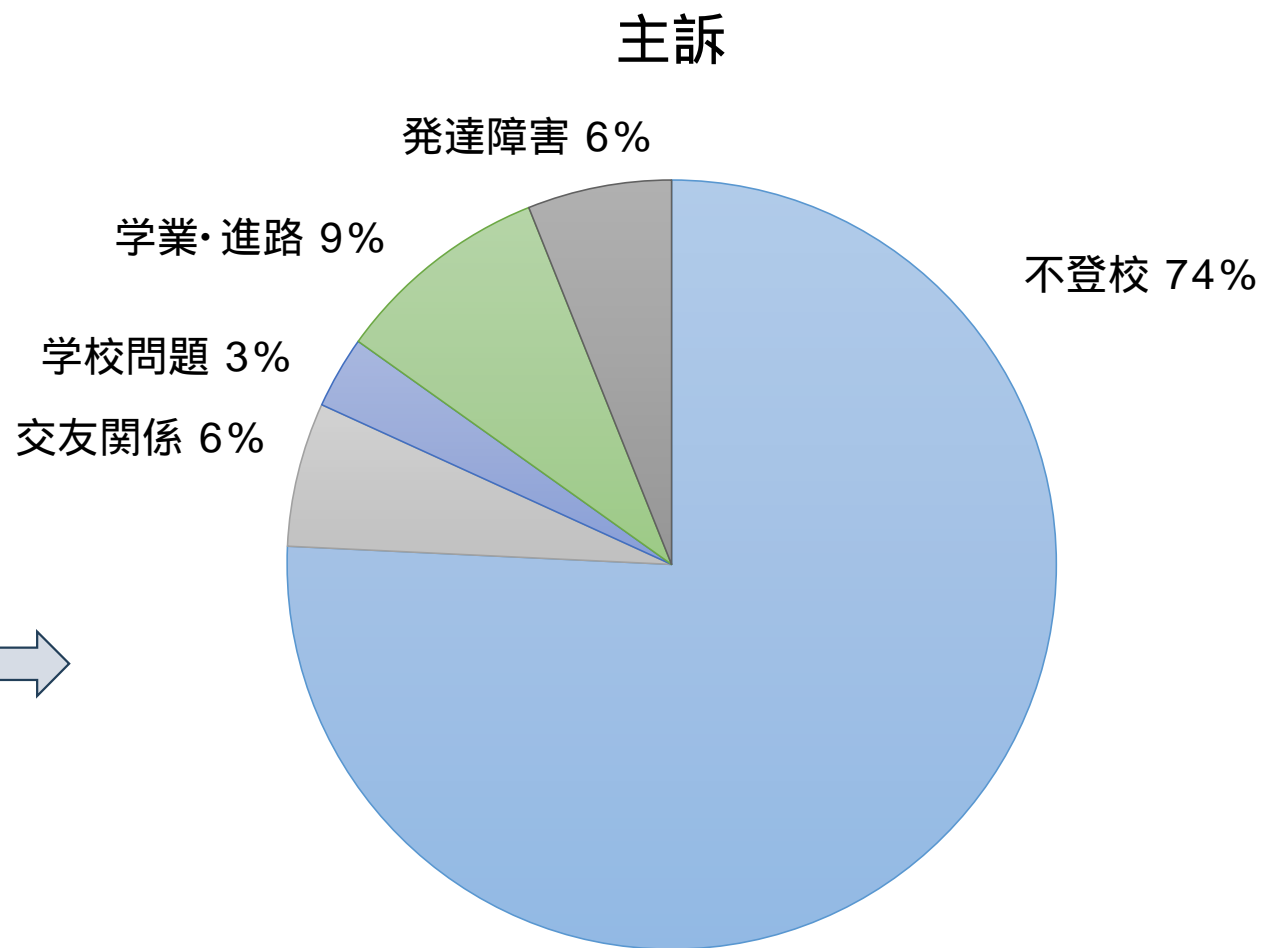
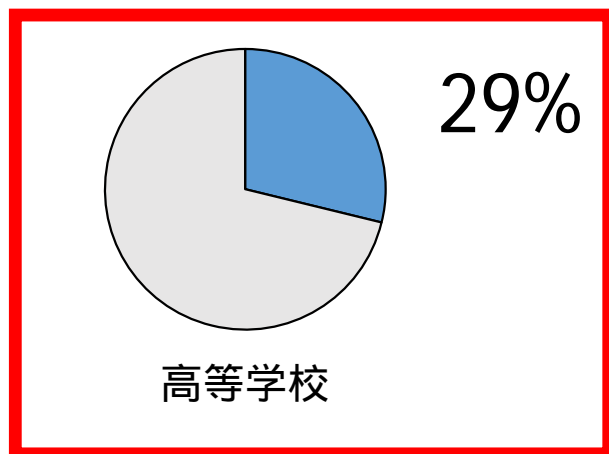
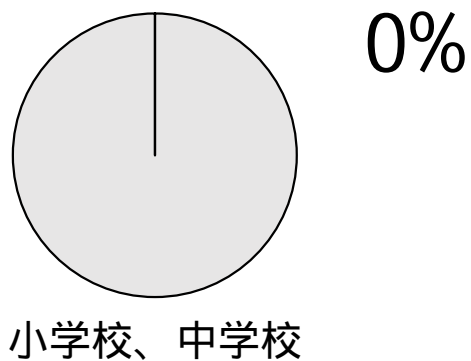
リソース（学校内）



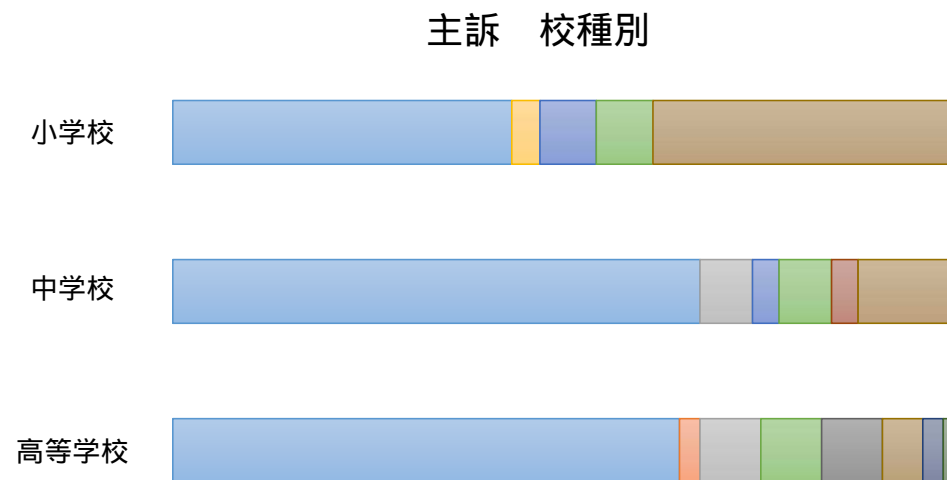
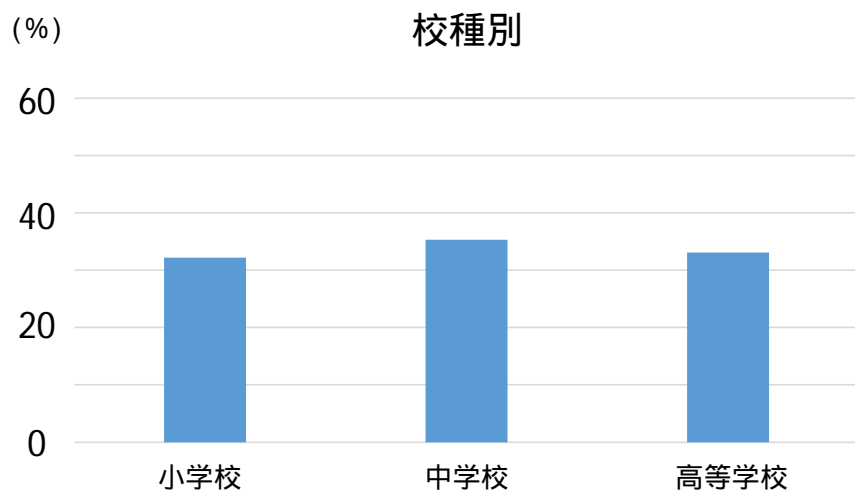
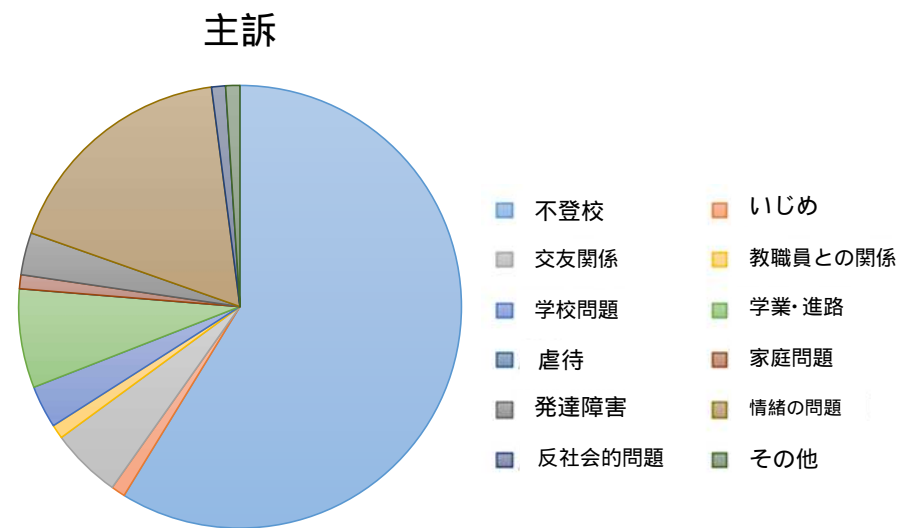
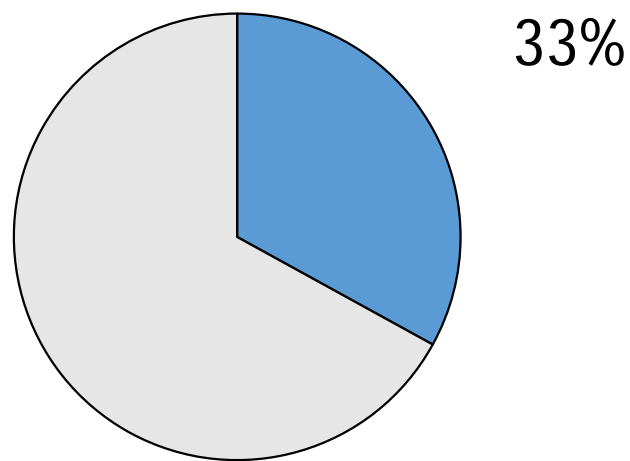
学校外のつながり



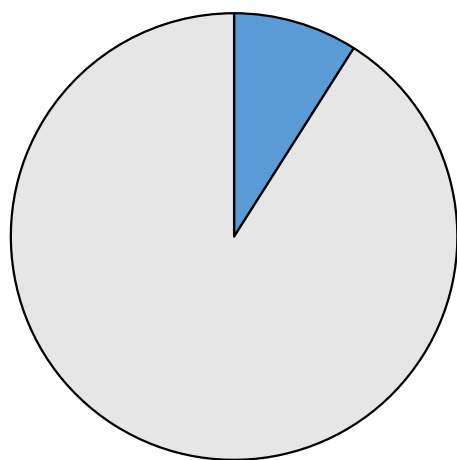
学校の勧めではなく、学校内外での特別な支援を受けていない状態で面接相談を受けたケース



学校内外での特別な支援を受けていないケース

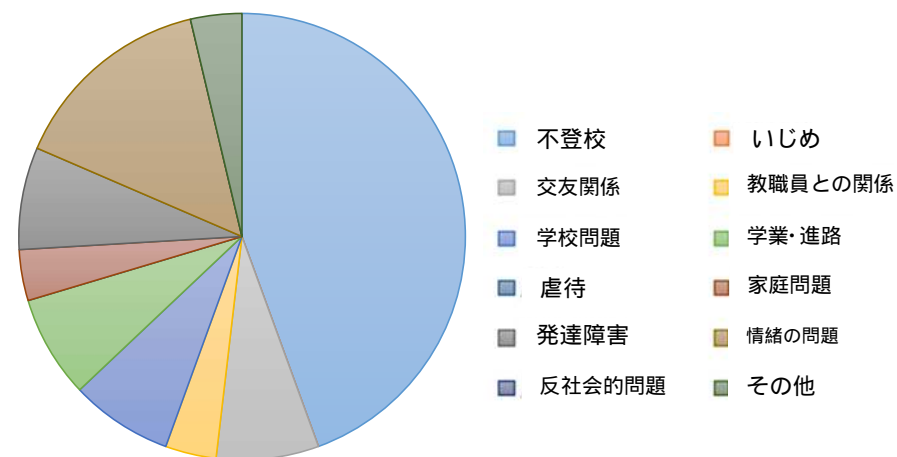


学校内外での特別な支援がなく、面接回数が2回以下のケース

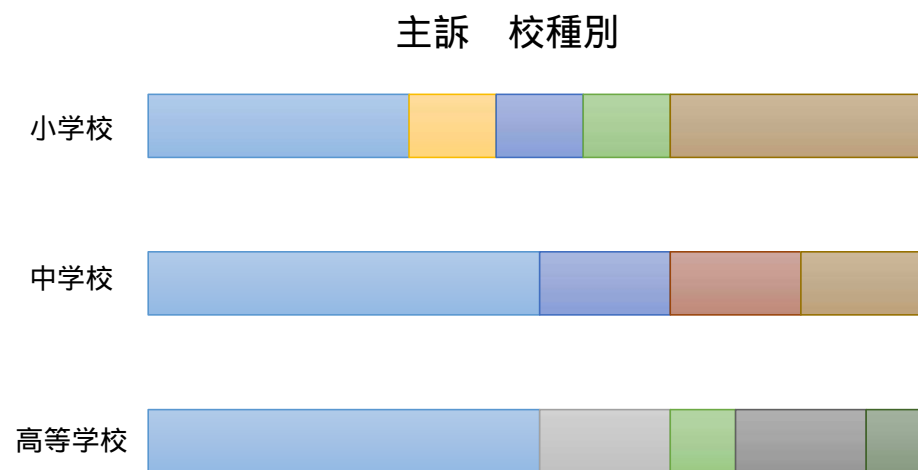
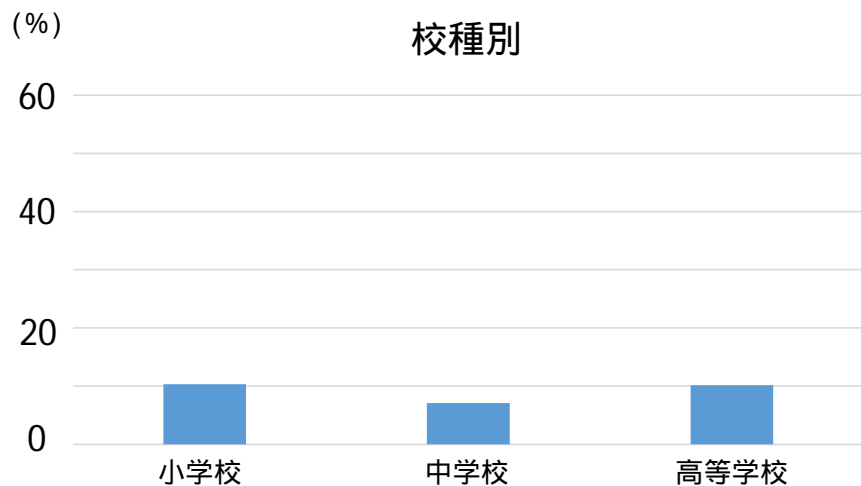


9%

主訴



- 不登校
- 交友関係
- 学校問題
- 虐待
- 発達障害
- 反社会的問題
- いじめ
- 教職員との関係
- 学業・進路
- 家庭問題
- 情緒の問題
- その他



1年目のまとめ

- 全ての「困り感、悩み」には、多様な背景がある。多面的かつ継続的なアセスメントが必要である。
- 「誰一人取り残されない」有効な支援を行うためには、学校内外に、リソースを活用した居場所づくりが大切である。
- 「有効な支援方法」につなげるため、来年度以降は、基礎データの質的分析に取り組みたい。